

特別展「旅するタネ」開催報告

山口瑞貴・南部靖幸

2024年7月13日から9月1日にかけて「熊本博物館夏季特別展/KAB 熊本朝日放送開局 35 周年記念 旅するタネ」(以下、「タネ展」とする)を開催した。本内容は、タネ展の展示内容、関連イベント等の記録を報告するものである。

1. 趣旨および展示概要

タネ展は種子の散布方法をメインテーマとし、種子や果実の形態、色、その他の多様性を紹介することで、植物の新たな一面を伝えとともに、外国産の貴重な標本や珍しい種子などを観覧できる機会とすることで、自然への興味、関心を喚起することを目的とした。

展示室は3つで構成し、展示室1、2は種子散布の方法について紹介する内容、展示室3は海外のタネや身近なタネ(食料として利用される種子・果実やどんぐりなど)を間近で見られる展示と体験コーナーとした。

開催期間は熊本市内小・中学校の夏季休業期間にあわせて7月中旬から8月とした。これまでの傾向から来館者は小学生および幼児とその保護者世代である 30~40 代が多いと想定し、こどもにも理解しやすく親しみをもってもらえるよう種子や果実をモチーフにして散布様式を擬人化したキャラクター(タネキャラ)を用いて解説したり、低年齢向けと大人向けにレベル分けした解説を設置したりするなどの工夫を行った。

また、小・中学生向けのワークシートおよび展示室マップを作成し、楽しみながら全ての展示エリアを観覧することができるよう誘導した。

会期:令和6年(2024年)7月13日(土)
~9月1日(日)

開館日数:43日

※当初45日の予定であったが、台風の影響により2日間(8/29、30)は臨時休館となった。

会場:熊本博物館2階

特別展示室1・2・3

主催:旅するタネ実行委員会

(熊本博物館/KAB 熊本朝日放送)

入場者数:16,378人

2. 展示構成および主な展示資料

各展示コーナーの概要と主な展示資料は以下の通りである。

(1) 風で旅する(風散布)

風散布による種子を①綿毛タイプ②羽根・翼タイプ③極小タイプの3つに分類して紹介した。ウォールケース内にて、標本はケース手前(観覧者側)、解説パネルは壁面(観覧者から奥側)に設置することを基本とし、標本を中心に観覧する場合は手前、より詳しい解説は壁面を見ればわかるような配置とした。また、展示してある種子が実際にどのような散布の仕方をしているのかを伝えるため、同ケース内にデジタルフォトフレームを設置し、種子が飛んだり回転したりする様子の映像を流した。

〈主な展示資料〉

ガガイモ、テイカカズラ、アルソミトラ、フタバガキ、アオギリ、シナノキ、シランなど。



写真1 風散布の種子

(2) 水で旅する（水散布）

海流や河川の流れによって散布する種子を紹介した。番外編として、雨滴によって種子を散布する種子を写真パネルで紹介し、カラスムギの芒が水に濡れて回転する様子も映像で紹介した。

〈主な展示資料〉

ココヤシ、モダマ、ゴバンノアシ、サキシマスオウノキ、ハウガンヒルギ、キシノウエ、ハスなど。



写真2 水散布の種子

(3) 火事で旅する（山火事散布）

日本国内では馴染みがないが、オーストラリアの乾燥地帯などでみられる散布様式として、山火事によって種子散布を行う植

物を紹介した。

〈主な展示資料〉

モントレーマツ（所蔵：大阪市立自然史博物館）、クリケットボール・ハケア（所蔵：大阪市立自然史博物館）、バンクシア属の一種、ブラシノキなど。



写真3 山火事散布の種子

(4) 弾けて旅する（自動散布）

乾燥や細胞の膨圧を利用して果実が弾けることで種子散布を行う植物を紹介した。標本の展示に加え、果実が弾ける瞬間を撮影してスロー再生した映像も流した。

〈主な展示資料〉

アメリカフウロ、ムラサキケマン、カラスノエンドウ、ナツフジなど。



写真4 自動散布の種子

(5) 動物と旅する（動物散布）

動物によって散布される種子を①ひっつき虫のタネ（付着散布）、②食べられるタネ（被食散布）、③残されるタネ（貯食散布）の3つに分類して紹介した。①から③の種子散布様式それぞれに関連する動物の剥製と果実を食している様子や貯食行動時の写真もあわせて展示した。

〈主な展示資料〉

ライオンゴロシ（所蔵：長野克也氏）、ツノゴマ、タビビトノキ、オニグルミ、タヌキ（剥製）、テン（剥製）、ヒヨドリ（剥製）、アカネズミ（剥製）など。



写真5 動物散布の種子

(6) 植物とタネの進化の旅

陸上に進出した植物が種子を獲得し、シダ種子植物から裸子植物、被子植物と進化する中で環境に適応し、多様化を遂げてきた過程について、化石標本を基に紹介した。また、来場者の興味関心を高めるため、中生代の種子化石が産出した地層から共産する有名な恐竜の模型や、種子食と推定されている翼竜の骨格なども関連するトピックとして展示した。

〈主な展示資料〉

クックソニア（所蔵：大阪市立自然史博物

館）、シダ種子植物の種子（所蔵：大阪市立自然史博物館）、ジュラ紀の銀杏、メタセコイア、タペジャラ、オオバタグルミ（所蔵：熊本県博物館ネットワークセンター）など。



写真6 植物とタネの進化

(7) 世界最大のタネ「フタゴヤシ」

フタゴヤシの標本（所蔵：大阪市立自然史博物館）をケース内に展示し、横にほぼ実寸大の重さ体験模型（約 10 kg）を設置した。また、展示室外にもフタゴヤシ撮影ブースを設け、フタゴヤシ模型（軽量版）を設置して来場者の記念撮影を促した。



写真7 フタゴヤシの重さ体験模型

(8) 食卓で出会うタネ

野菜、果物の種子や香辛料として利用される果実・種子などを展示した。また、本エ

リアには「自由研究のヒント」として、こども向けのパネルを複数配置した。

〈主な展示資料〉

オリーブ、ソバ、サンショウ、アズキ、キャベツ、イチゴ、ブドウ、マンゴー、バナナ（所蔵：長野克也氏）など。



写真 8 食卓のタネ



写真 9 どんぐり展示コーナー

（９）世界のタネ・身近なタネ

外国に生育する植物や公園などの身近なところで見られる植物の種子、果実を展示した。また、熊本県内で見ることができるどんぐりと、対応する樹種のさく葉標本を展示し、イラストを用いて作成したどんぐり検索表とともに紹介した。本コーナーでは標本の露出展示やタンポポの綿毛をモビールにした展示を行い、一部において植物名や解説パネルを設置しない部分も取り入れた。

〈主な展示資料〉

パオバブ（所蔵：倉敷市立自然史博物館）、ドリアン（所蔵：大阪市立自然史博物館）、オガタマノキ、ケヤキ、タイサンボクなど。



写真 10 タンポポのモビール



写真 11 身近なタネ



写真 13 観察コーナー

(10) 体験コーナー

フタバガキの巨大模型を滑車で引き上げて自由落下させ、回転する様子を体験したり、種子や果実の細部や形態を顕微鏡で観察できたりするコーナーとした。

〈主な内容〉

フタバガキおよびイロハモミジの巨大模型、顕微鏡観察コーナー、オナモミダーツ、ハウガンヒルギの立体パズル、タネの万華鏡など。



写真 14 オナモミダーツ



写真 12 フタバガキの巨大模型

3. 関連イベント・企画等

(1) 講演会

「はなしのネタになるタネのはなし」

日時：7月27日(土) 15:00~16:30

場所：プラネタリウム室

参加者：106人

講師：長野克也 氏(東海大学名誉教授)

(2) ミュージアムトーク(展示解説)

日時：7月13日(土)、7月26日(金)、

8月4日(日)、8月14日(水)

14:00~(約30分間)

場所：特別展示室1・2

参加者：計123人

(3) ワークショップ

①飛ばしてみよう！アルソミトラのグラ

イダー

日時：7月21日（日）

10：30～11：30/14：00～15：00

場所：実験・工作室

参加者：63人

②タネのモビール作り

日時：7月26日（金）13：30～15：00

場所：実験・工作室

参加者：9名

③オナモミダーツ大会

日時：8月3日（土）

13：30～/14：30～/15：30～

場所：講堂

参加者：34人

④どんぐりかんさつ講座

日時：8月10日（土）13：30～14：30

場所：実験・工作室

参加者：14人

⑤くるくるまわるフタバガキの模型作り

日時：8月11日（日）

10：30～11：30/14：00～16：00

場所：実験・工作室

参加者：179人

⑥タネでつくる万華鏡

日時：8月12日（月）13：30～14：30

場所：実験・工作室

参加者：16人

⑦世界に1つ！オリジナル缶バッジ作り

日時：8月13日（火）

9：00～11：00/13：30～16：00

場所：実験・工作室

参加者：130人

⑧タネのヒミツを探ろう！

日時：8月18日（日）14：00～15：00

場所：講堂

参加者：21人

（4）タネキャラ総選挙

展示会オリジナルキャラクター（タネキャラ）の人気投票企画を実施した。投票はQRコードを読み取りスマートフォン等に行う方法とした（投票数451）。



写真 15 タネキャラ選挙

（5）旅タネスケッチ大会

会場で観覧した標本のスケッチや考案したタネキャラを所定の用紙に描き、指定のタグ（#旅タネスケッチ大会）をつけてXに投稿し、応募してもらう企画を実施した。会期後には応募いただいた作品の中から4作品を優秀作品として当館のXにて紹介した。

4. 小・中学生を対象とした学習企画

本展開催にあわせ、小・中学生の夏季休業期間の自主学習として利用できる学習シートを作成した。低学年および中学年を対象とした学習シートは、タネキャラを用いたクイズ形式のもので、タネキャラに描かれている種子や果実を会場に展示されている標本から探して解答するものである。中学年～高学年、および中学生を対象とした学習シートは、本展を観覧して種子標本の特徴等を記述し、レポートとしてまとめるワークシート形式のものとした。学習シートは当館ホームページでの公開と熊本市内の

小・中学生に配布されているタブレット端末内のアプリ（ロイロノート）による配信とした。会期後半はタブレット端末を持参して取り組む様子が特に多くみられた。

また、会期前に熊本市内の小学校（3年生1クラス）の協力を得て、植物の種子に関する出前授業を実施した。内容はタネ展の内容に沿った散布様式を紹介するもので、クイズや簡易なタネ模型の工作を取り入れたものである。授業の様子は、KAB 熊本朝日放送により撮影、放送された。初めて見た種子標本に対する驚き、感動の反応や次々と挙がる質問等は、本展の開催前において大変参考となるものであり、会期中のイベント等においても大いに活用できるものであった。

5. おわりに

これまで当館で行ってきた植物分野での展示では、地域の自然を中心に取り上げて紹介する内容の展示がほとんどであったが、今回のタネ展では外国産の種子・果実など、熊本ではなかなか見る機会がないものも多く取り入れた。開催期間中に会場にて実施したアンケートの結果では、熊本市内から来館された方が半数を占めており、感想やコメントとして、地元の博物館で貴重な標本を見ることができたことや学びの機会が得られたことに対する好意的な意見が多数寄せられた。また、一般的には動かない、小さい、地味というイメージであるタネが移動する手段を持っている、大きいかつ重いものも存在する、想像以上に色や形が多様で美しい、という新たな一面を実物に触れて知ることができたことに関する驚きや感動についての記述も多く見られた。また、顕

微鏡を使った観察に関する記載も目立ち、学校で顕微鏡を使用する世代のみならず、幼児も顕微鏡を覗くことに強い興味を抱いていることが伺え、会期途中からは操作方法の説明を拡充したところ、親子で長時間観察を楽しんでいる姿も多数見られた。

会場において植物名のみ（解説なし）で約100種の標本を並べた展示コーナーは、花はよく見るもののタネは知らない、日頃よく見かけるタネではあるけれど名前は知らない、といったものにもう一步踏み込んで興味を持ってもらいたいという目的で「実物図鑑」の要素を取り入れるべく設置したものであった。解説がないことに対する意見等が上がることを懸念していたが、来館者からは「近所の公園にあるやつだ!」、「○○っていう名前だったんだ」という狙いどおりの反応を多数窺うことができた。

今回のアンケートでは、内容を5段階（大変良かった・良かった・普通・あまり良くなかった・良くなかった）で評価する項目において、「大変良かった」および「良かった」と回答した割合が9割を超える結果を得ることができた。これは、来館者が小学生以下の年齢層が多く、観察コーナーや体験模型など、実際に見て触れる体験ができるものを多く取り入れたことが満足度につながり、大きく影響したと考えている。幼児～小学生の世代が多く訪れる展示では、手に取り、体験的に遊びながら学べることや映像（風散布の回転様子や自動散布が次々と弾けていく様子など）によって動きを伝えることは効果的に理解を深めることや興味をもつ機会とすることができると改めて感じたため、今後もテーマにあわせて積極的に活用していきたい。あわせて、ワーク

ーシートの充実や、より有効な活用法について
いても今後の課題としたい。

謝辞

本展の開催に関しては、大阪市立自然史博物館、熊本県博物館ネットワークセンター、倉敷市立自然史博物館、群馬県立自然史博物館、在セーシェル日本国大使館、東海大学名誉教授 長野克也氏をはじめ、多くの方にご協力いただいた。この場を借りて御礼申し上げます。